

保育らくあか

福岡市長 高島 宗一郎 氏 書

編集・発行 一般社団法人福岡市保育協会 福岡市中央区荒戸3丁目3-39 福岡市市民福祉プラザ6F 発行者 増本律秀 編集者 有松 徹



福岡市議会 議長賞
「癒しの笑顔」
今津保育園 鮎木 良子



福岡市 保育連盟 会長賞
「うん!異常なしっ」
愛咲美保育園 後藤 夕紀



福岡市長賞
「見つけた!」
やまのみ保育園 安藤 彩花

こどものえがお展 より

10月27日~10月30日 ソラリアプラザ1Fゼファ



市民賞
「わあー!のびた」
平尾保育園 田中 幸恵



「ガブッ!!!」
愛咲美保育園 平川 美和
保育士会 会長賞



「レンズの先には?」
西日本 新聞社賞
あゆみらい保育園 馬郡 千尋

vol.129 令和4年度 2号

キャリアアップの要件……………	2	コロナ対応の変化……………	6~7
就職戦線2022-23……………	3	コラム……………	8
研究大会の見どころ……………	4	編集後記……………	8
赤い羽根共同募金……………	5		



キャリアアップの要件

「施設型給付費等に係る処遇改善等加算Ⅱに係る研修修了要件について（通知）」 改正概要 令和3年9月

新型コロナウイルス感染症の影響下において、令和4年度からの研修要件の適用は行われなかった為、改めて、令和5年度からの要件について確認が必要だと思われましたので、ご参考までにご覧ください。

処遇改善等加算Ⅱの賃金改善対象者に係る研修修了要件について				
		保育所等	幼稚園	認定こども園
研修要件	副主任保育士、中核リーダー、専門リーダー	4分野以上の研修の修了 ※副主任保育士についてはマネジメント分野の研修を含むことが必要	計60時間以上の研修の修了 ※中核リーダーは15時間以上のマネジメント分野の研修を含むことが必要	計60時間以上の研修の修了 ※中核リーダーは15時間以上のマネジメント分野の研修を含むことが必要
	職務分野別リーダー、若手リーダー	担当する1分野の研修の修了	計15時間以上の研修の修了 ※担当する職務分野に対応する研修を含むことが必要	計15時間以上の研修の修了 ※担当する職務分野に対応する研修を含むことが必要
研修内容等	研修実施主体	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県 都道府県の指定を受けた機関※ ※市町村、指定保育士養成施設、保育に関する研修の実施のある非営利団体に限る。	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県又は市町村（教育委員会含む。） 幼稚園関係団体、認定こども園関係団体のうち都道府県が適当と認める者 大学、大学共同利用機関、指定教員養成機関、免許状更新講習開設者等 その他都道府県が適当と認める者 園内研修を実施する幼稚園・認定こども園 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県又は市町村（教育委員会含む。） 認定こども園関係団体、幼稚園関係団体、保育関係団体のうち都道府県が適当と認める者 大学、大学共同利用機関、指定教員養成機関、免許状更新講習開設者等 その他都道府県が適当と認める者 園内研修を実施する認定こども園・幼稚園
	対象となる研修内容	保育所等キャリアアップ研修として実施する以下の分野に係る研修 ①乳児保育、②幼児教育、③障害児保育、④食育・アレルギー対応、⑤保健衛生・安全対策、⑥保護者支援・子育て支援、⑦マネジメント ※研修時間は各分野15時間以上	幼稚園教育要領等を踏まえて教育の質を高めるための知識・技能の向上を目的とした研修	幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領及び保育所保育指針を踏まえて教育及び保育の質を高めるための知識・技能の向上を目的とした研修
	研修修了状況の確認方法	加算認定自治体 ^(注) において、保育士等キャリアアップ研修の修了証により研修の修了状況を確認	加算認定自治体 ^(注) において、各施設が作成する研修受講履歴等により研修の内容及び修了状況を確認	加算認定自治体 ^(注) において、各施設が作成する研修受講履歴等により研修の内容及び修了状況を確認

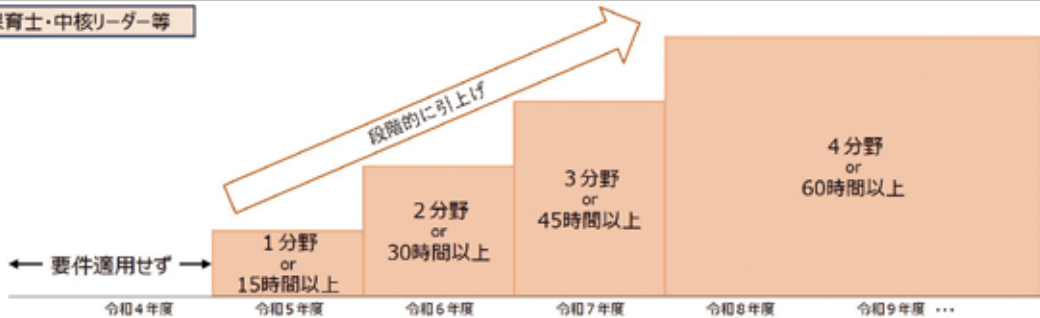
(注) 都道府県、指定都市、中核市及び都道府県との協議により処遇改善等加算に係る事務を行う市町村

1

1. 研修修了要件の取扱い

- 新型コロナウイルス感染症の影響下において、地方自治体の研修実施体制の構築に一定の期間を要することを踏まえ、令和4年度からの研修修了要件の適用は行わない。
- 研修受講の重要性和円滑な要件の適用を考慮して、研修要件を段階的に適用することとし、副主任保育士・中核リーダー等については令和5年度、職務分野別リーダー・若手リーダーについては令和6年度を適用開始年度とする。
- 副主任保育士・中核リーダー等については、初年度に求める研修修了数は1分野（15時間以上）とし、令和6年度以降、毎年度1分野（15時間以上）ずつ必要となる研修修了数を引き上げる。

副主任保育士・中核リーダー等



職務分野別リーダー・若手リーダー



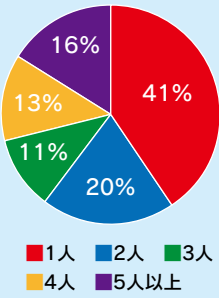
※副主任保育士等において月額4万円の改善を行う者を1人以上確保したうえで、副主任保育士等に係る加算額を配分して賃金の改善を行う職務分野別リーダー等についても、令和6年度以降は、1分野（15時間）以上の研修修了が必要

2

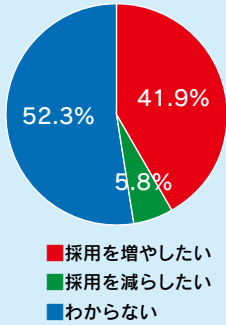
就職戦線2022-23
機関紙編集委員 古賀圭一郎

年が明けると卒園・進級の準備で忙しくなる保育園業界。春には新入園の子どもたちを迎え入れるため、用品を購入したり施設を修繕したりするかもしれない。なにより腐心するのは、必要な保育士の確保ではないでしょうか。数年前の大きな社会問題であった待機児童問題は落ち着きを見せ、保育施設数の拡充とともに、保育士確保問題も少しずつ変わってきているようです。今回は、保育園側・求職者（新卒）側の両方からこの問題の今を調査しました。

新卒採用数(R5年度)



来年度以降の新卒採用



広報調査調べ(2022年12月)

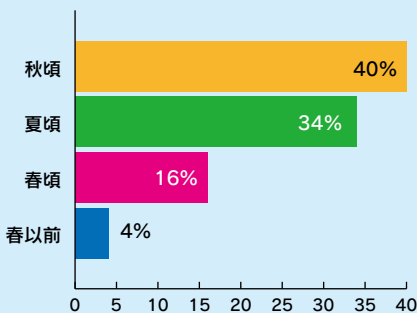
今回、新卒採用に関するアンケートにご協力いただいた保育協会所属の市内約90か園の回答を分析してみました(12月4日時点)。令和5年度春の採用に関しては、74%の園が新卒採用を予定しています。その採用人数ですが、1人採用が最も多く、3名以内の採用園が7割を超えています。今後の見通しについては、採用意欲の高い園と、不明または採用に消極的な園が半々に分かれます。不明または採用を控えたい理由としては、やはり退職職員の動向に左右されるとい意見が多く、その次に園児の減少を理由と答えた回答が多く寄せられました。処遇改善が進み、離職が減ってきたので採用しなくて済んでいるという意見も一部にありましたが、全体としては毎年の離職に備えての採用の人数に頭を悩ませる園が多いようです。

積極的に採用していきたいという園で多かった意見は、職場の活性化や若い力に期待しているというものでした。人材紹介と比べると、新卒採用は紹介料の発生しない短期的に見れば低コスト策と言えますが、社会や職場環境の変化が激しい時代に対応するために、考え方が柔軟で過去の考えに囚われない若い人材に期待しているため積極的に採用したいという意見が多く聞かれました。

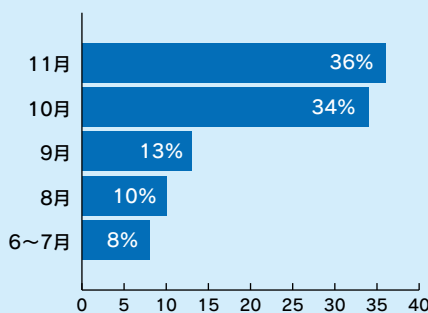
では、求職活動している学生側はどう考えているのか？今回は、保育学生の就活支援や保育士カフェびたカフェの運営を行っているNPO法人HOCARIに協力をいただき、カフェを利用する学生の声を聞くことができました。まず就活を始める時期に関して、コロナ禍の影響で動きが遅いと言われているようですが、約4割の学生が秋ごろにスタートしています。残りの50%以上の学生は夏以前にすでに動いているという実態もわかりました。内定取得時期と比較すると、内定は10~11月が一番多いため、早めの活動開始が必ずしも早めの内定とはなっていませんが、早めに動くことで多くの施設を見学・実習でき、多くの選択肢から希望先を決めているようです。一方で、遅くスタートした学生が内定がもらいにくいとは言えず、約2週間ほどの間に実習先を決め、採用試験に臨み、内定を受けているという学生が非常に多いこともわかりました。どういった経緯で就職を決めたのかを聞くと、「実習で声をかけられた」という回答が最も多く、特に印象が悪くなければそのまま就職しているようです。

保育協会として、6月に就職フェアを開催するなど早めの就職活動を意識してもらおうと毎年のように取り組んでいます。遅く始めたからと言って保育園に就職できないことはないというのが現実のようです。保育園サイドとしては、園児が集まりにくくなってきたり、今後の採用の不透明さが強まっている現状で、これから徐々に全体としての採用数は減っていくと思われまます。とはいえ、良い人材を採用したいという保育園のニーズは変わらなないと思います。早めに就職活動を始める「意識の高い学生」に、早い時期から接触し、採用に繋げることが大切かもしれません。ただし、採用に「絶対」はありませんので、ご注意ください。(笑)

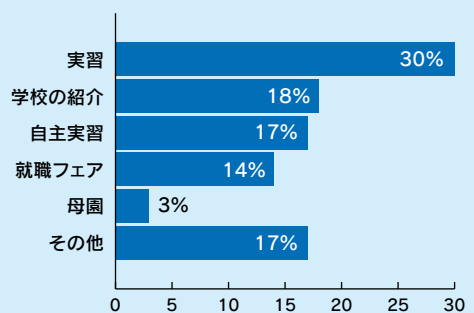
いつ就活を始めた？



内定取得時期



就職を決めた理由は？



NPO法人HOCARI調べ(2022年11月)

研究大会の見どころ

東区グループ

「主体性を育むごっこ遊び」

講師：中村学園大学教育学部 児童幼児教育学科 野中 千都 氏
 リーダー：松島りすの森保育園 伊豆丸 直樹
 副リーダー：みらいの森保育園 浦辺 夏歩

東区区別研究会では「主体性を育むごっこ遊び」をテーマとして、主体性を軸にごっこ遊びについて研究を進めてきました。講師の野中先生からのご提案により、まず最初に、子ども達にとって主体性とは何かというお話を頂きました。



次に、現代の子ども達がどのようにごっこ遊びを展開させているのかの調査を行いました。各園の研究員が把握したごっこ遊びの内容をカテゴリー化すると、昔ながらの“ままごと”や“お店屋さん”等に加え、“You Tubeごっこ” “tik tokごっこ”などのメディアに関するものが出てくるなど現代ならではの傾向も見られました。

現代のごっこ遊びの傾向と保育者の役割について考える中で、保育者がどのように環境構成・言葉かけを行うのかをグループで意見を出しあいました。子ども達の主体性を大事にしたい反面、行事や活動の為にどうしても保育者の意図を優先してしまうことがあるという本音も出てきましたが、その中で少しでも子ども達の姿や意思を尊重しながら保育を進めていきたいという考えに至りました。研究大会では、具体的なごっこ遊びの環境構成・保育者の配慮事項を中心に、子どものごっこ遊びがより主体的なものとなるための工夫について発表したいと思います。

南区グループ

『ふれあい遊び』の保育への展開について ～子どもたちの心身の健やかな育ちを目指して～

講師：九州産業大学人間科学部子ども教育学科 三原 詔子 氏
 リーダー：こばと保育園 村谷 真紀
 副リーダー：野間ナーサリー 池松 由理

乳幼児期は、子どもの生涯にわたる人間形成において極めて重要な時です。その中で、肌と肌との触れ合いや肌を通して感じる温かさは、子どもの心身の健全な成長を育み、社会観や人間観の土台を作っていきます。しかし、現代の社会環境において、日常の家庭の中や、多忙な保育環境の中で、スキンシップの機会を持つことが難しくなっている現状があります。そこで、本研究グループでは子どもとの触れ合いについて着目し、山口創『幸せになる脳はだっこで育つ』（2013）を参考図書に、また、講師の三原先生による、『ふれあい遊び』の講義により理論と実践を学びました。そして、さまざまな環境下で育つ子どもたちに対し、日常の保育の中でふれあい遊びをどのようにして提供をしていけるかを検討するために、各園でのふれあい遊びの実践報告書を収集し、対象児の年齢ごとに内容や方法について分析し、その結果を考察しました。



更に、遊びの上位ランキングの中から、人気があったふれあい遊びの実践交流を対象年齢別に分かれ行いました。研究大会では、ふれあい遊び実践報告書を踏まえて、「ふれあい遊び」の大切さや保育の中で実践するための具体的な方法など、改めて検討した結果をまとめて発表したいと思います。

城南区グループ

「保育の仕事をもっと魅力的なものにしよう！」

講師：香蘭女子短期大学 保育学科 濱田 尚志 氏
 リーダー：きりん保育園 百田 亜紀
 副リーダー：すみれ保育園 小池 祐美子

城南区では、まず保育士の仕事そのものについて、日々の保育の中での悩み、保育者の資質、業務の在り方に着目しました。そして、それらに対し深く学び合うことで、保育士の専門性の向上、やりがいをもって保育に臨むことを目指し、子どもたちの幸福に繋がることを目指して、本テーマを設定しました。



まず、研究員対象のアンケート調査により、保育士としての悩みの内容を抽出しました。その後、リモートで実施した定例会において、それらの悩みが解決に向かう方法をグループワークを通して検討しました。全5回のリモート定例会では、「保育」「職員同士のコミュニケーション」「業務」「保護者対応」「地域との関わり」のテーマ別に経験年数が偏らないように4～5人のグループに分かれ、共通と言える悩みに対する事例や解決方法で上手くいったこと・上手くいかなかったこと、園全体で取り組んでいることなどの意見を出し合いました。どのテーマの悩みでも研究員同士で共感する部分が多々あったため、たくさん経験談を聞くことができました。しかし保育には正解がなく、上手くいったエピソードでも関わる子どもや保護者にとっては上手くいかないこともある為、保育の難しさを痛感し息詰まる場面もありました。そのような際には、講師の濱田先生に保育士とは違った視点や視野で、また専門的なお立場からのアドバイスをいただき、各自が保育の中で実践することができ、自信に繋がりました。

研究大会では、研究員間で悩みながら検討を重ねたグループワークの内容や過程を中心に発表します。

給食グループ

食育を通して行う保護者へのアプローチ ～乳幼児期の発達と偏食～

講師：西南女学院大学保健福祉学部 天本 理恵 氏
 リーダー：野ばら保育園 路木 さなえ
 副リーダー：しもやまと保育園 手島 あかね

私たち給食研究グループは、7区より各1名と公立保育所の計8名の研究員で1・2年目は早緑子供園副園長の土田珠紀先生、3年目は天本理恵先生を講師に迎え研究を進めて参りました。



コロナ禍での研究ということもあり3年に渡る研究期間で、参集での定例会が行えないなど大変なこともありましたが、子どもたちの心身の豊かな成長や、生涯にわたる食習慣の形成のために、保育所職員による保護者へのアプローチ方法の検討を行いました。保育と給食の専門性を活かしながら、子どもの「食」の課題に実践的に取り組むべく研究を進めています。

研究大会では、子どもの偏食をクローズアップし、より専門的な知識や理論の学びと共に、園での偏食の対応例などを中心に発表します。

多くの保育士、給食職員の食に関する課題の中心とも言える偏食について新たな知識を得ることによって、子どもたちの偏食のメカニズムや生理的成長を理解し、それが何より子どもにとっての楽しい食事の時間を支える手助けができるようにと願い研究をしてまいりましたので、その点に注目して聞いていただきたいと思います。

令和4年度の「赤い羽根キャッチフレーズ」は「**支え合い 未来につなげる おくり物**」：赤い羽根共同募金」
 福岡県共同募金会
 (機関紙編集委員 山口 恩)

令和4年度(76回目)の共同募金運動が始まりました。福岡市保育協会からの赤い羽根共同募金へのご協力ありがとうございました。(協力園…224カ園、募金額…3,718,391円)

皆様からの募金は、その75%が集められた地域(市区町村)に還元され、様々な福祉課題の解決を目指して実施される福祉活動に役立てられます。

共同募金の使い道としては、「支援が必要な方を地域で見守る事業」、「高齢者の生きがいづくり事業」、「子育てを応援するための事業」などの地域の身近な福祉活動、障害者の移動支援を行うための福祉車両を購入する福祉施設への支援などを行っており、「無縁社会」などの社会問題を解決するために、地域の繋がりを再構築する活動にも配分されています。

また、大規模な自然災害が多発する中、被災地に設置された災害ボランティアセンター支援にも活用されるなど、共同募金は災害時のボランティア活動支援にも役立っています。

赤い羽根共同募金の期間は、10月1日から翌年の3月31日までとなっています。

この期間内で、地域歳末たすけあい運動やNHK歳末たすけあい運動などの活動も実施されています。

赤い羽根共同募金のHPに昨年度の募金に対する表彰の記事が載っておりましてので紹介いたします。

厚生労働大臣感謝状

福岡市内の全私立認可保育園288カ園(令和3年度末)が加盟する一般社団法人福岡市保育協会様から令和3年度赤い羽根共同募金に対していただいたご寄付について、令和4年9月21日(水)福岡市保育協会園長会にて、本会事務局長伊藤より、同協会理事長増本律秀様(写真左)に感謝状をお渡ししました。



園と園児のリスクに漏れなく備えていますか？

園経営には、さまざまなリスクが伴います。公益社団法人全国私立保育連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん・こどもえんのほけん
 4月1日～1年間(中途加入可能)
 「園賠償責任保険(新型コロナウイルス等対応費用補償特約付帯)」「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」など、園経営における従来のリスクに加えて新型コロナウイルス感染症にも対応する保険をご用意しております。

やくいんのほけん
 8月1日～1年間(中途加入可能)
 社会福祉法人の役員の業務遂行に関する賠償リスクとレピュテーション(風評被害)リスクに加えて雇用関連トラブルによる法人への賠償リスクもオプションで対応する保険となります。

上記以外にも、「学童保育」などの保険も取り扱っております。

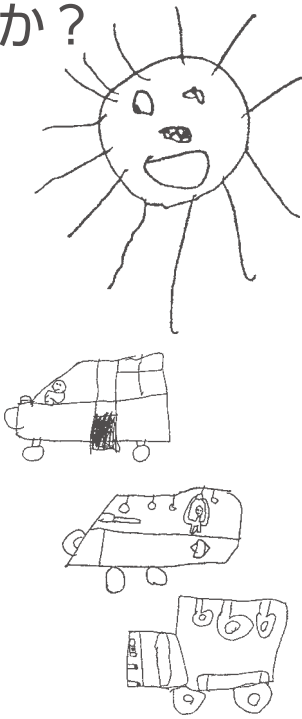
まずは**有限会社ゼンポ**までお気軽にご相談ください！

TEL **03-3865-3881**
 FAX **03-3865-2806**

〈連絡先〉
 公益社団法人全国私立保育連盟指定 東京海上日動火災保険株式会社代理店 **有限会社ゼンポ**
 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
 TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
 担当課：公務第二部 文教公務室
 TEL 03-3515-4134

このご案内には施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・会社役員賠償責任保険・レピュテーション費用保険(レピュテーション費用特約条項付 費用・利益保険)・雇用関連賠償責任保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。



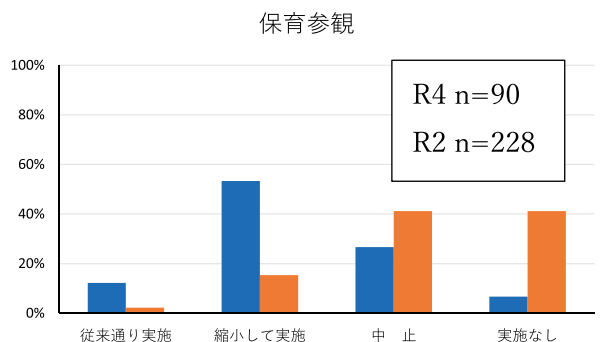
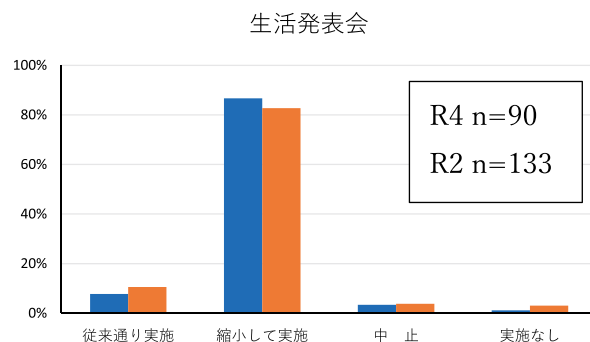
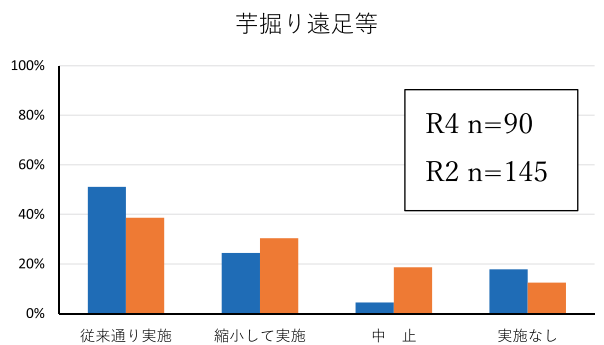
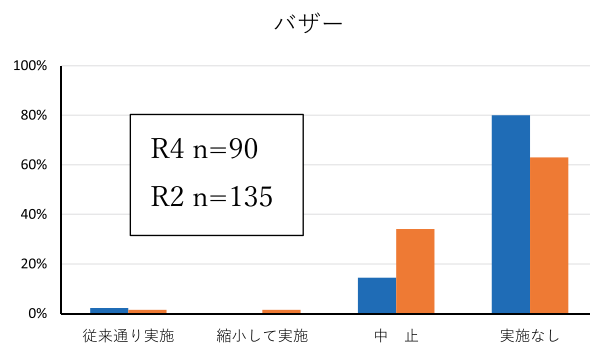
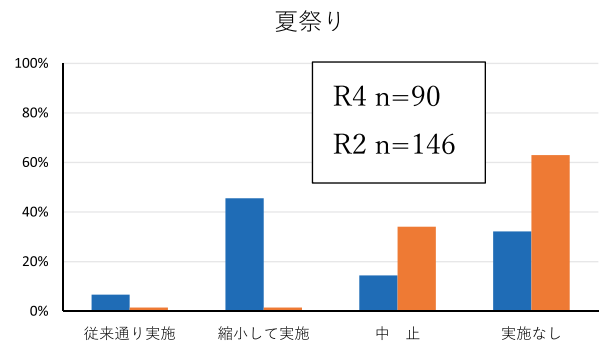
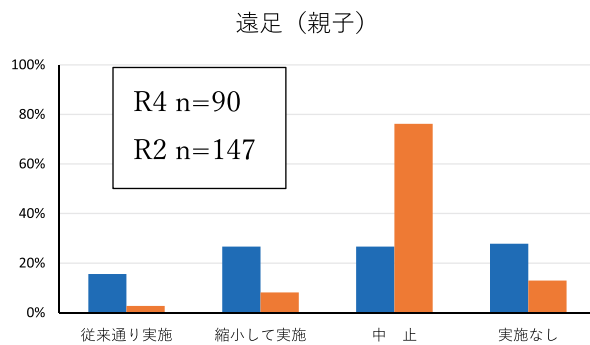
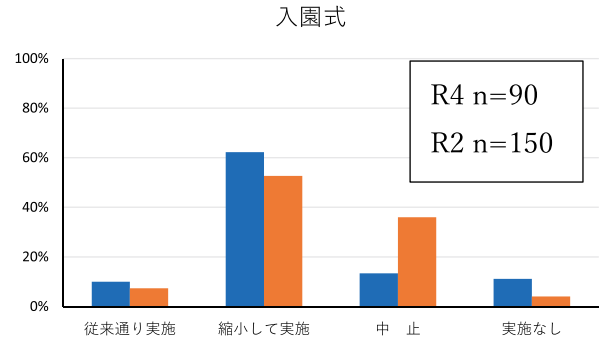
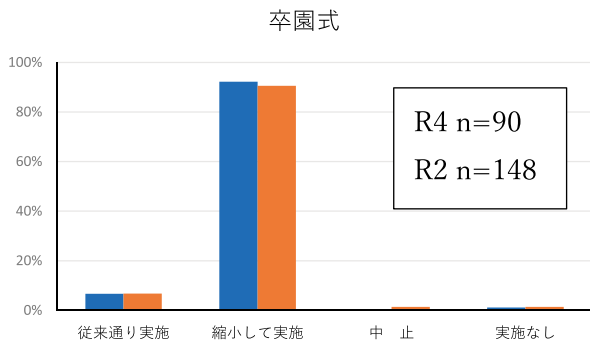
コロナ対応の変化

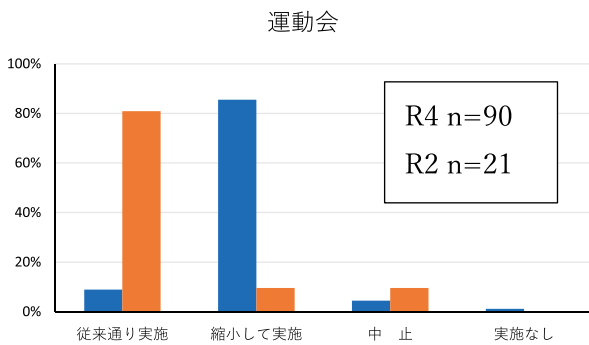
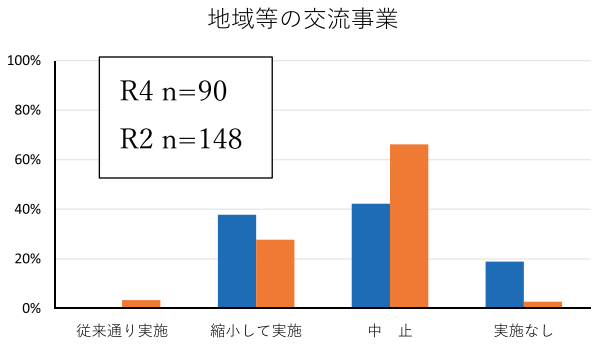
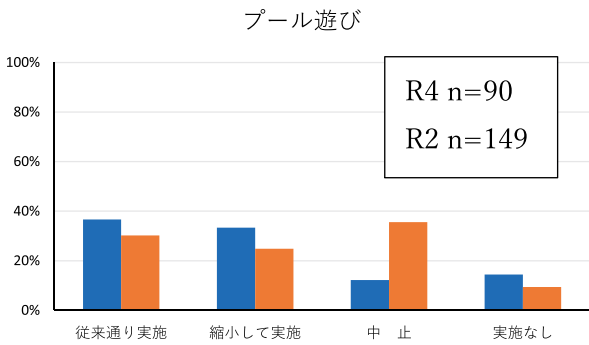
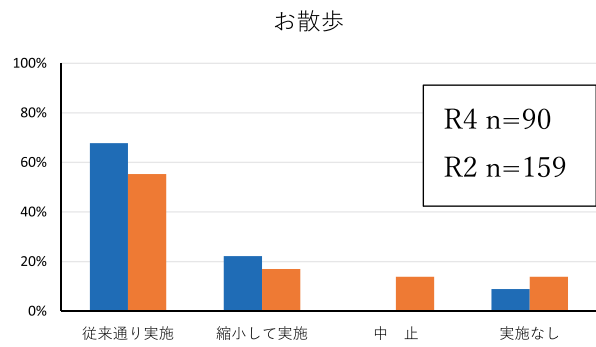
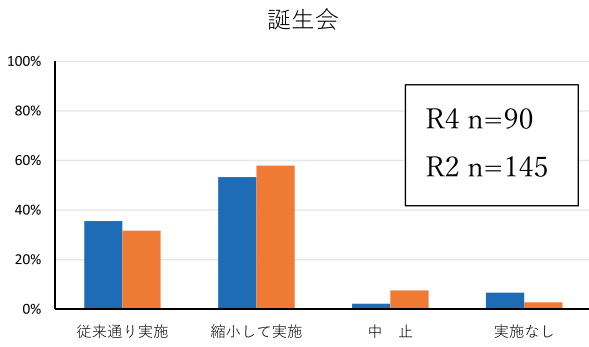
機関紙編集委員 高山 拓人

新型コロナウイルスが流行し始めて、早くも4年目を迎えようとしています。未知のウイルスとの戦いだっただ3年前と比べると、少しずつその実態が解明され始め、子どもたちの生命・安全を守る取り組みにも、変化が生まれてきたのではないのでしょうか。

そこで新型コロナウイルス対策について、行事の実施方法を中心にアンケートを実施いたしました。令和2年12月発行の保育ふくおかでも同じ内容でアンケートにご協力いただきましたので、今回の結果と比較してみたいと思います。(単位は園数) 各行事の開催について回答いただいたデータをパーセンテージで表記しています。

■が令和4年度の数値を、■が令和2年度の数値を表しています。





令和2年度のデータと今回のデータのサンプル数に大きな差があり、単純比較は難しいかもしれませんが、全体的に「中止」の割合が減り、「縮小して実施」の割合が増えています。特に戶外活動（親子遠足・プール遊びなど）にその傾向が強くみられるようです。さらに、芋掘り遠足やお散歩など園児のみで行うと想像される戶外活動については、通常通り実施の割合も50%を超えており（芋掘り51%・お散歩68%）、各保育園がwithコロナの行事のあり方を模索しているようです。

以上のような結果となりました。縮小して実施した行事の対策・工夫点としては、ほとんどがクラスごとの開催、人数制限の実施等、参加人数を絞って密を回避する方法でした。中には、市民センターなどの大きな会場を利用して、密を回避する方法、YouTubeやzoomを使った映像の配信を行う、CDに焼き付けて配布するなど、多くの人が集まらないよう工夫している園もあるようでした。

令和4年度のアンケートでは、「従来通り実施」「縮小して実施」「中止」「実施なし」に加えて、「廃止」の5つの選択肢でアンケートを実施しました。以下に各行事を廃止した園の割合をまとめましたので、ご参考までにご覧ください。（回答は90カ園）

卒園式	入園式	遠足（親子）	夏祭り	バザー	芋掘り遠足等	生活発表会
0%	3%	3%	1%	3%	2%	1%
保育参観	誕生会	お散歩	プール遊び	地域等の交流事業	運動会	
1%	2%	1%	3%	1%	0%	

「こころ」おじぎゅうのもののひびく

長住保育園 主任保育士 武田 恵美

今年もあと2週間ほどを残すところとなりました。忙しい師走に入り先生方は朝早くから夜遅くまで走り回って忙しい毎日をお過ごしのこととお察し申し上げます。このコラムを皆様方が目にされるのは新しい年のお慶蘇気分も冷めかけた頃と思いますがよろしくお願ひ致します。

私がこの保育園に来た(連れてこられた)のは今から半世紀も前の事でした。この園は当初定員100人でスタートしたのですが、現在は園児数260名の園になっています。(大幅な定員割れを起していますが...)。

園の東門を入って左に私の住処があります。バス・トイレ・電気・水道なし、おまけに家賃も無しの荒屋から子どもたちを見守る生活を50年続けています。長い間ここから眺めていると色々なものが見えてきます。人は世につれ、世は人につれ、私の周りの景色や環境もずいぶん変わりました。開園時に毎朝欠かさず挨拶に来てくれた子ども達は今もう56歳、お爺さん、お婆さんになった人もいるかもしれませんね。

私は見たり聞いたりした事を直接人に伝えることができないので、いつもお世話になっている主任保育士さんの手助けで思いを述べてみたいと思います。

昨今のニュースで、行っべき安全確認を怠って幼気ない子どもを死亡させる事件や、虐待暴言など子どもたちの人権を無視したような不適切保育の問題が多く報道されています。なぜこのような事が起こるのかと憤ったり嘆いているだけでは何の解決にもなりません。私たちはこの出来事を他人事とは捉えず、真剣に向き合い考察を重ね解決策を探る必要があると思います。保育園を利用される方々だけではなく、統括する行政、実践する保育関係者を含め広く社会的課題として多方面から検討を加える事が重要です。考えるべき問題は多数存在しており、一つ一つが根深く一朝一夕に解決するものではありません。

すべての課題は関連しておりますが、ここでは土曜保育について考えてみたいと思います。

昔はこの市での土曜日の保育は午後4時までとなっており、それ以降は延長保育となっていたようです。ほとんどの園児は午後4時で降園し延長保育に入る子どもは少なかったのですが、土曜も保育時間が月曜から金曜と同じになると多くの子ども達の迎えが午後6時頃になると多くなりました。もちろん土曜日も働かねばならない保護者もいらっしゃることは理解してはいますし、たとえ休日であっても保護者も心身の休息や所用などのため時間が必要な事も承知してはいますが毎週欠かさず土曜日も登園し保育士よりも総在園時間が長くなる子の事になると考えさせられます。巷間を飛び交う多くのメディア(NHKでさえも)では金曜や月曜が休みの場合は当然のように(土曜日も含めた)三連休として報道しています。これほど週休二日制が社会に浸透している今、土曜日も通常と同様の保育時間扱いにするのはとても違和感を感じますが如何なものでしょうか。土曜日は学校も官公庁も病院も銀行も郵便局も開いていません。

保育園が通常通りに開園していれば利用しようと思うのは自然の流れであり止めようがありません。しかし、これだけ週休二日が浸透した中で土曜に子供を預かる8週14休の中で働く保育士の心中は穏やかではない時もあると察します。

「保育園落ちた、日本死ね」のお陰(?)で給与などはいくら改善されましたがまだまだ充分とは言えません。給与を含めた処遇は保育士の社会的責任の大きさを考慮すると到底納得できる水準ではありません。長らくコロナ禍のなかにあつては保育士も Essential Workerの一員と呼ばれていますが、その言葉に見合った評価もなく、ただ犠牲だけを強いられ、その社

会的評価は依然低いままのように感じます。子育て支援が国家的戦略として位置付けられ、その重要性は皆が認めるところでありますが現状の子育て支援は金銭による子育て世帯への生活支援が多くみられます。しかし長い期間にわたり子どもたちに寄り添い、その成長を見守る養育・保育が必要な子育て支援には、その制度を支える人々への投資が必要不可欠であり就学前の子どもたちの保育・教育の実践を受け持つ人材の充実・充足を図り、それぞれが持っている能力を十分に発揮できる給与・休日・社会的評価などの環境の整備を行うことが最優先かつ最も効果的・効果的な手法だと思います。保育の最前線が崩壊すればどんなに素晴らしい制度でも絵に描いた餅となることは自明の理であり、この事を子育て支援の実践者もそれを支える支援者も十分に理解し、子どもたち、実践者、支援者が相互にリスペクトしあえる環境が構築できれば、今のような保育士不足、保育士離れや不適切保育など頭を悩ませている諸問題も明るい方向に向かうのではないのでしょうか。

棚の下で口を開けて牡丹餅が落ちてくるのを待つことを止め、他力本願ではなく自力本願の気構えで行動することが必要だと思えます。積小為大。



以上、物言わぬ(えぬ)私が長々と思いを吐露いたしました。

私の名は地藏菩薩、愛称はお地藏さん、閻魔大王の化身ともいわれております。

最も弱い立場の人々を最優先で救済する菩薩であり、子どもの守り神と言われております。

編集後記

今年のお正月は如何お過ごしでしたか。実家に帰り家族とゆっくり過ごした方、旅行に行った方、いろいろな形があったことと思います。お正月には歳神様がそれぞれの家に行くとくると昔から言われてきました。

そのため、年末に大掃除をして家中を清め、門松やしめ飾り、鏡餅などの正月飾りを準備し、敵かな気持ちで年神様をお迎えます。

おせち料理やお雑煮などのお正月料理も神様に供える食べ物由来といわれ、伝統的なお正月遊びも、羽根突きは1年の厄を跳ねる、凧揚げは凧が高く上がるほど子どもが健やかに成長する、コマ回しは物を円滑に回すなど、それぞれに願いが込められています。

時代と共にお正月の過ごし方も様々になりましたが、新しい年を迎えたことを喜び、一年の息災を願う大切な節目の日という位置付けには変わりありません。コマ回しや凧揚げなどの外遊び以外にも、かるたや福笑など室内遊びを保育に取り入れてみては如何ですか。

機関紙編集委員 日野 (笹丘)コスモス保育園



~感想やご意見はこちらにお送りください~

【保育協会メールアドレス】kyoukai@hoiku.or.jp